

幼保小の管理職による連絡協議会のススメ

幼保小連携・接続のポイント「3つのつなぐ」

組織をつなぐ

- 管理職の連絡協議会
- 連携担当者のつながり
- 年間交流計画の作成
- 就学前後の引き継ぎ・連絡会の実施
- 園・学校・学級だより等の共有



人をつなぐ

- ねらいを明確にした園児と児童の交流
- 保育参観・授業参観
- 幼保小合同研修会
- 保育体験・授業体験



【参考】
鳥取県幼保小接続ハンドブック
育ちと学びをつなぐP.9～14



教育をつなぐ

- めざす子どもの姿の共通理解
- 教育内容・保育内容の理解
- アプローチカリキュラム
スタートカリキュラムの編成・実施・評価・改善



管理職の連絡協議会は、幼保小連携・接続の推進の第一歩です。

管理職の連絡協議会は
全県で**82.6%**の
学校が実施。

【西部では**77.8%**】
(R2年度69.6%よりUP!)
【R3年度学校教育実施状況調査より】

内容例

- 校区的子どもの良さや課題の共有
- 校区的めざす子どもの姿を協議・共通理解
- 今年度の幼保小連携担当者の確認
- 合同研修会・交流活動について
- 第1回連携担当者会の日程調整 など



毎年、定期的に連絡協議会を実施している校区では、年間計画に連絡協議会を位置付けたり、声かけをする当番校・園を決めたりするなどの工夫をされています。

年度初めに、園・所と小学校の管理職が顔を合わせ、校区の目指す子どもの姿や育てたい力等、方向性を明確にすることで、校区一体となった共通実践の実現につながります。



管理職の連絡協議会を起点に幼保小連携・接続の取組をさらに進め、「遊びの中の豊かな育ちと学び」を「主体的な学び」へとつないでいきましょう。